

大形の周心細胞が 2 個並んでいる。

(4) 附着器は下面の細胞の中央部から円柱状の管が長く伸びて、その先端に小さい細胞が多数作られそのため先端が小円盤状となつている。

(5) 四分胞子嚢の stichidia はコザネモと全然異つて縁辺から独立して生ずる。8 個の周心軸細胞をもちその長さは 1 mm をこすこともあり、curve する。各節の長さと同幅で 1 節に 1 個の四分胞子嚢を有し、はつきりした蓋細胞 2 個をもっている。

以上の諸性質は *Placophora* と一致する。以前中井教授の御好意によつて東大理学部踏査室の *P. Binderi* の標本を検査することが出来、これと伊豆の材料とを比較研究をしたことがあるが、どうしてもその間に差異を見出すことが出来なかつた。従来知られた生育地からあまりに遠く、しかもミル属の上に生えているに對し、このものはモクの根に匍つている。筆者は伊豆のミル属の着生植物も大分調べたのであるが、*Placophora* は見られなかつた。そこで多少の疑問はあるがこの種にあてゝおくのが適當と思ふ。

なほこの植物と *Herpochondria Corallinae* (Martens) Falkenberg 及びいわゆるニクサエダといはれるもの等に関して言及したいこともあるが詳細は後日にゆづる。

○古渡りのテンデクボタンと私 “古渡りのテンデクボタンですが、貴方が学生の時にお話ししましたかね。実物が何処にあるのかは明かしませんでしたね。あれから十年以上になりますね。実はこの庭の一隅に植えてずっと門外不出にしているんです。すっかり研究が済むまではそうしようと思ひましてね。性質は恐つそろしく丈夫なもので、花は毎年咲きますが、今年はどう言うものか一寸花著が悪かつたようです。色は緋色で実にきれいです。本草通串証図のテンデクボタンは色が褪めたようだが、実物はあんまりではないです。もう彩色の写生図もとつているから安心です。あれを手に入れるのには随分苦心しましたよ。初めに大隅の垂水附近の畠の畔であれを作つているのを見付けたが、後で行つて見ると、もう取り去られていて残念でした。その後日向の都城附近でやつと見付けたのが今ここに植えているものなのです。子供の時分に、郷里の家の近所にお寺がありましてね。そこにきれいなテンデクボタンが植えてありました。あんまりきれいなので子供心にも少しほしいと思ひましたが、いくら頼んでもお寺ではわけてくれませんでした。そのテンデクボタンは今ここに植えているのと寸分違はぬものでした。こう言う訳で私はこの植物を特別に愛惜しているのです。九州や四國を秋に旅行すると実に楽しいですわ。特に九州の南部がよい。キクやダーリヤなどがきれいに咲いていてわ。注意して歩くと嘉永、弘化時分に渡つたいろいろの植物が目につきます。”

(牧野先生一夕話 X—文責在編輯)